

第 1 回三木市自転車活用推進計画検討協議会 議事録（案）

1 日 時 令和 2 年 11 月 6 日（金曜日） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分

2 場 所 三木市役所 5 階 大会議室

3 協議会内容

(1) 開会

（●●委員より挨拶）

平素は本市の都市整備行政に尽力賜り、感謝申し上げます。また、本日は多忙の中、協議会に参加いただき重ねて感謝申し上げます。自転車を取り巻く交通事情について、平成 19 年 6 月に道路交通法が改正され、自転車に関する交通秩序の整序化が図られている。これに伴い、自転車に係る通行実態や事故実態を踏まえた自転車走行空間の整備推進が求められている。このような状況において、国では平成 30 年度に自転車の最上位計画である自転車活用推進計画が策定され、県において昨年度に同計画が策定されたと伺っている。本市においても自転車走行空間の整備が必要であるという認識のもと、昨年度に自転車ネットワーク整備計画を策定した。国・県に続き、今年度、本市において自転車の最上位計画である自転車活用推進計画を策定したいと考えているため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

この計画が市民の方々にとってより良いものとなるために、委員の方々には忌憚ない意見をいただきたいと思っている。

(2) 三木市自転車活用推進計画検討協議会設置要綱について

（事務局より資料説明）

事 務 局：設置要綱に対して、意見質問はあるか。

（各委員異議なし）

事 務 局：この設置要綱に基づき、協議を進める。

(3) 会長及び副会長の選出について

（事務局より会長及び副会長の選出について説明）

●●委員：会長及び副会長の選出については、事務局に一任してはどうか。

（各委員異議なし）

事 務 局：会長に徳島大学の●●氏、副会長に三木市都市整備部部長の●●氏及び三木市産業振興部部長の●●氏の 2 名を推薦したい。

（各委員異議なし）

事 務 局：本協議会の会長は●●氏を、副会長は●●氏及び●●氏に決定する。

(会長より挨拶)

兵庫県においては「自転車ネットワーク整備計画連絡会議・アドバイザー会議」が設置されており、私も議長として参加している。会議の中では自転車通行空間の整備などについて市町の方々との協議をしている。三木市の自転車活用推進計画の策定に当たり、協力できればと考えている。自転車に関する施策は、これまで交通安全に重きを置いていたが、それに加えて自転車を活用したまちづくりが重要になってきていると考えている。三木市においても、自転車を活用して楽しく、にぎやかなまちづくりを進めて参りたいと考えているため、よろしくお願ひ申し上げる。

(4) 委員紹介について

(各委員自己紹介)

(5) (案) 計画スケジュールについて

(事務局より資料説明)

事 務 局：計画スケジュールに対して、意見質問はあるか。

(各委員異議なし)

事 務 局：この計画スケジュールに沿って本計画の策定に向けて検討を進めることとする。

(6) 説明事項について

① 三木市におけるこれまでの経緯と現状について

(事務局より資料説明)

事 務 局：今の説明に対して、意見質問はあるか。

(各委員意見なし)

② 兵庫県自転車活用推進計画と県内の状況について

(●●委員代理より資料説明)

事 務 局：今の説明に対して、意見質問はあるか。

(各委員意見なし)

(7) 協議事項について

① 計画策定の趣旨について

② 三木市の自転車交通を取り巻く現状と課題について

③ 計画の目標及び取組施策について

(事務局より資料説明)

- 委員代理：兵庫県の自転車活用推進計画をよく確認されている。取組内容について、計画策定時点で全ての内容を決めてしまうのではなく、「このような取組みをしていきたい、検討していく」というような取組内容があっても良いと思っている。兵庫県においても実際には検討しきれていない取組内容もある。実施するのか、今後検討するのかを示す方がより分かりやすくなるのではないかと思う。県の計画は県下全体を対象としている。今後さらに精査することで、市の計画は県の計画に比べより具体的なものになると思われる。
- 会長：目標ははっきり描いた方が良いと思う。しかし、●●委員代理から提案いただいた取組施策の内容の示し方は工夫した上で、計画期間中に改めて検討していく方法もあると思う。
- 事務局：事務局としても、目標や検証方法をどのように設定していけば良いか悩んでいるところである。本日の意見を受けて、どのような方向に進めていけば良いのかも含めて次回の協議会までに精査していくこととする。
- 会長：取組については、体制づくりも重要となってくるため、庁内や協力者探しから始めても良いと思う。
- 委員：商工観光の担当としては、ハード整備がある程度完了した頃に参画させていただく立場であると認識している。今回の計画ではハード整備を含めた本計画を活かした魅力づくりや三木市内の方々に自転車を利用してもらっただけでなく、外部から三木市に足を運んでいただけるような施策を示していくものと思っている。北播磨県民局としては三木市だけでなく、北播磨全域で幅広く来訪してもらいたいと考えているため、今回の計画で検討案を提示いただき、共に検討していければと思っている。
- 会長：観光部局については、ツーリズムの検討の際に協力いただくものであると認識している。ツーリズムについては、民間の活用などソフト施策を上手く立ち上げる必要があり、例えば、淡路では先進的な取組を行っている。淡路での自転車利用としてはロードバイク系がほとんどであるが、これとは異なった自転車の使い方も多くあるため、三木市に合った自転車の使い方を検討することで魅力的なエリアになると思っている。徳島県では、民間事業者で、折り畳み自転車のツアーを行っている事例がある。このツアーで用いられる折り畳み自転車であれば軽トラックで10台程乗せることが可能であり、好きな場所からスタートすることが出来るため、健康志向者向けのサイクルツーリズムの一つとして位置づけ

られる。こういった民間事業者との連携も検討してはどうか。

- ● 委員：加東土木事務所としては、昨年度三木市が策定した三木市自転車ネットワーク整備計画内で示している自転車ネットワーク路線の整備を進めていく必要があると認識している。この整備を進めるには課題もあるが、県と市で協力し、安全で円滑な走行環境の創出に努めていく必要があると考えている。

また、兵庫県では関係機関で構成した「サイクルツーリズム推進に向けた地域モデルルート推進協議会」（以下、「サイクル協議会」という。）を立ち上げ、モデルルートとして「山田錦の里ロングライドコース」（以下、「山田錦の里コース」という。）を設定し、走行環境や拠点環境の整備等を計画的に進めている。また、サイクル協議会では、設定した「山田錦の里コース」の新たな拠点整備に合わせたルート変更も検討しており、さらには「山田錦の里コース」を基幹ルートとし、地域内を巡る地域ルートの設定も必要ではないかという意見が出ている。県民局では「東はりま・北はりまサイクリングマップ」を作成し、東播磨地域、北播磨地域を周遊する4つのコースを設定している。その中の1つをモデルルートとして設定しており、残りの3コースを地域ルートとして、今後サイクル協議会において取組みを展開していこうと考えている。さらには、三木市内でも地域ルートを設定し、推進していくことでツーリズムによる地域振興に繋がるのではないかと考えている。

また、今はツーリズムと言えばロードバイクが主流となっており、「走る」ことが主でゆっくり地域を巡るといふところまでには至っていない。そのようなことから、北播磨県民局では、今年度より「北播磨サイクル&フットパス」という地域を巡って北播磨の魅力をポタリングと徒歩で体験していただく取組を進めているところである。三木市域でも、三木市の担当部署と連携して新たなルートの設定も進めており、これらも合わせてサイクルツーリズムによる地域の活性化に繋がればと考えている。

- ● 会長：ルートの設定の中で、サービスを上手く生み出すことを考える必要がある。三木市内を起終点としてルートを設定することで、例えば、週末に自転車に関するビジネスをやってみたいというお店が出てくれば協力関係を結ぶことができる。徳島県では、自転車好きの男性が徳島空港横にカフェを開業し、BMXなどの自転車貸出事業を併設した商売を始めた。自転車はスモールビジネスとして繋がっていく可能性があるため、検討いただければと思う。

●● 委員：道路管理者の立場として、事故に対する安全対策の面で意見を述べさせていただくと、昨年度策定した自転車ネットワーク整備計画では「優先的計画策定エリア」を設定しており、事故の多いエリアを概ねカバーできていると認識している。その中で私達に出来ることは何かと考えたところ、私たちの蓄積されたノウハウのほとんどが自動車や歩行者に対する対策ばかりであり、自転車では何が必要なのか、何が危険なのかといったノウハウが不足しており、反省すべき点であると認識している。地元の方々や交通管理者から意見をいただきながら進めていきたいと考えているため、今後とも意思疎通を図っていきたいと思っている。

次に一般的な視点から、本計画でどこまで施策や取組を具体化して示すのかが決まっていない印象を受けた。例えば、観光面ではレンタサイクルや駐輪場の整備を示されているが、具体的にどの辺りにニーズがあるのか、どのようにニーズを拾い上げるのかといったことを今後検討する必要があるのではないか。

事務局：事故等の危険箇所への対応は、昨年度策定した計画に基づき進めている。レンタサイクルや駐輪場に関しては、ニーズの把握が不足しているため、今後把握が必要であると認識している。また、駐輪場に関しては、概ね駅前での整備が完了しているため、今後は適正な配置検討が必要であると考えている。●●委員の意見を受けて、地域のニーズを拾い上げ、検討を進めていくこととする。

●● 会長：三木市内での駐輪場の数は概ね充足しているという認識で良いか。

事務局：約 14～15 年前くらいまでは駐輪場から自転車が溢れているような状況であったが、昨今では放置自転車の数も減少傾向にあることから、概ね駐輪需要をカバー出来ていると認識している。

●● 会長：今までは放置自転車を減らすために駐輪場を整備するという考え方であったが、現在はまちの活力を向上させるような駐輪場を整備するという考え方になりつつある。そのため、店舗に近い歩道上の小規模な駐輪場といった本当に駐輪需要が見られる場所への整備というのを考えていく必要があると思う。

事務局：今後検討していく。

●●オブザーバー：3 点について述べる。まず 1 点目は、兵庫県の自転車活用推進計画は、国の自転車活用推進計画の 20 項目程度ある実施すべき施策から地域に沿った選択を行い、策定している。また、兵庫県のモデルルートはサイクルツーリズムを主眼として設定していると認識している。しかし、市町でのルートとなると、地域性や市民の健康促進、環境課題から見たル

ートを設定することで市民に受け入れられると思っている。

2 点目は、自転車通行空間の整備前後に自転車等の通行状況の調査を行うことがある。整備後、左側通行を遵守する自転車の数は増えるが、一部逆走する自転車も見受けられる。このため、自転車利用者に対する啓発やマナー向上のための活動は、整備直後だけでなく、継続的な取組が必要である。

3 点目は、一般にサイクリストの方は持ちものが少ない身軽な状態で来訪し、身軽に帰られ、あまり買い物をしない印象を受ける。淡路の道の駅では、自転車を載せた自動車が多く駐車しており、道の駅の施設利用などの一般の自動車が駐車出来ないという事例がある。しかし、「道の駅みき」は、駐車場が比較的広く整備されているため、この「道の駅みき」を起終点とし、自転車利用者を買物してもらうなど、色んな施設で環境づくりをすると良いと考える。

- ● 委員：三木市の運転免許保有者のうち約 30%が 65 歳以上である。兵庫県下と比較すると、約 10%程度高い状況となっている。このことから、現在サポカーの普及啓発を実施している。また、2 年後には 75 歳以上の運転者の免許更新時には運転技能検査が行われることとなる。今後免許証を返納し、自転車利用に転換する方々が増えてくるのではないかと想定している。日常生活での自転車利用が増えることから、自動車運転者に対して今後、自転車に対する注意を喚起する交通安全教室や啓発活動、また高齢者への自転車利用に対する教育をより頻度を上げて実施する必要があると思っている。
- ● 会長：高齢者の自転車利用に対する教育は、全国的に課題になっているところである。高齢者に自転車利用の交通ルールを守ってもらうためには、自転車の乗り方教室や安全教室において、こうすれば安全なんだと感じてもらえるような講習となるよう工夫をする必要がある。運転免許返納時などの機会をとらえて、講習するなども必要である。また、高齢者にヘルメットを着用してもらう取組を実施している事例もある。愛媛県では高校生の自転車利用者に全員ヘルメットを着用する取組を行った。高校生がヘルメットを被るようになると、高齢者もヘルメットを徐々に被るようになってきているという事例もある。また、自転車の逆走は非常に懸念すべきことで事故の原因となることから、細街路を含めて左側通行の指導が重要となってくる。高校生の通行が多い路線で指導すると、高校生は指導に従う。そうすると流れがいき、通りやすくなり自動車からも分かりやすい。こういった指導を街頭で行うとよい。例えば、金沢市

では月に1回、通学時間帯である8時前くらいに「自転車は左側を走ってください」と書いたプラカードを掲げて街頭に立っている。これにより、自転車関連事故がここ10年間で6割も減少したという実績がある。三木市でもそういった連携を考えてほしい。

- ● 委員：取組施策一覧について、幅広く示している状態であるが、その中でも「実施する」「実施すべき」「実施したい」「実施できれば良い」等に整理することが大事と考えている。事務局のみで出来ることではないため、市の各部局等と調整を進め、実効性のあるものとしていくことが重要と思っている。
レンタサイクルの取組については、他市町の事例を勉強し参考にしていきたい。
- ● 会長：庁内での体制づくりがこの計画の目標でもある。ぜひ、一丸となってレベルは色々あると思うが、全体で計画の検討を進めていただきたい。
- ● 委員：観光振興からの立場で、本市は自転車に関する取組で遅れを取っていると認識している。考えられる要因としては、土地柄もあって観光バスや自動車での利用を促進していたことが挙げられる。しかし、商業施設の方に話を伺うと、ロードバイクなどの自転車利用者は一定数見られ、駐輪場がなくても利用者が考えて駐輪していることが分かった。そのため、行政側で自転車ラックや案内表示の設置をすれば、もっと来てもらえるのではと思っている。
資料の取組施策一覧で取組内容を示したものの、どこまで実現できるのか定かでない状況で、実現できないものを示して良いものか悩んでいる。そのため、各委員から意見をいただきたいと思っている。
- ● 会長：現在、世界的に自転車がブームとなっており、健康志向で快適に走行できる場所があると各地から来訪者が集まるため、そのような事例も踏まえて検討をすべきである。
- ● 委員：生活環境部局から、まず環境対策については、自動車から自転車へ転換すればCO2排出量の低減が図られるため、環境面の啓発活動を引き続き実施する必要があると認識している。交通対策について、児童及び生徒に対する自転車の乗り方教室を警察署の協力を得ながら行っているが、ライフステージに応じた交通安全教育の推進については一部署で出来るものでなく、民間など色々な力をお借りしながら進める必要があり、そういった課題が残っている状況である。

- ● 委員：自転車ネットワーク整備計画に基づいて整備される箇所には通学路が含まれるため、中学生等の自転車通学の方法に影響が出てくると想定している。そのため、学生に対する安全教室での自転車専用通行帯の通行方法等の教育が必要となってくると思う。
- ● 会長：自転車通学生に対する教育は非常に大切と考える。金沢市では、高校生が自主研究の一環で、自転車利用で危険だと感じる場所を調べてマップを作成したり、自転車の利用方法について紙芝居を作り啓発していくような活動を行うことで、高校生全体に浸透させていったという事例もある。このように、外部の人が来て話すのではなく、学内の継続的な活動としてしているところもあるので、参考にしてもらいたい。
- ● 委員：自動車目線にない自転車目線での需要を見出すことが必要となり、出来る限り具体的に進める必要があると認識している。当課が担当する地方創生やインバウンドでは今回の計画に直接的に関わる可能性は低いですが、自転車は近年アニメなどの影響もあり、ブームが起きていることからこの波に乗りたいという想いがある。
- ● 副会長：私たち都市整備部局は、今までハード整備を中心として業務を行ってきており、整備が終われば業務も完了という認識でいた。しかし、本計画はソフト対策を中心として進めていく必要があるため、他の所属の方々の意見やアドバイスを受けて庁内連携し、また兵庫県、国との連携を含めて協力をお願いする。
- ● 副会長：本日、様々な意見をいただき、長距離の自転車利用と近隣での自転車利用の違いは荷物の有無であるという話しに改めてそうだなと思った。産業振興部局としては、長距離の自転車利用者も含めて土産などを買ってもらうソフト面を考えていきたい。
- ● 会長：夏場であれば飲み物が必要不可欠となるため、サイクルカフェといった事例もある。
- ● 委員：三木市には神戸電鉄粟生線があり、神戸電鉄粟生線活性化協議会も発足されている。このため、粟生線の利用促進において、自転車の活用と連携すべきではないかと思われる。自転車と鉄道が連携することで、取組施策に示されているレンタサイクルの整備や駐輪場の適正配置が円滑に進めることができたり、サイクルツーリズムによるイベント開催なども

効率的に実施でき、双方にとってメリットがあるのではないか。

●●副会長：本協議会の事務局と栗生線の協議会の事務局は同じ部内であることから、お互い連携しながら進めたいと考えている。また、神戸電鉄栗生線活性化協議会においても利用促進の目標を示しており、レンタサイクルについても掲げていることから、今回の議論を受けて一度協議の場を設けたいと考える。

●●会長：自転車と鉄道は敵対するものでなく、一緒に活性化に向け連携できるものとする。

資料 4-3 に示している将来像については、一度検討いただき、今後適した将来像を決定していくこととする。

●●委員：都市政策部局から、現在複数課で連携し、地域資源を生かしたまちづくりの取組を進めている。本市には城下町があり、密集市街地であるが、歴史的な観光資源が多くあり、これら資源を活用したフットパスでの地域ルートを検討している。そのため、今後各課からも意見をいただきたいと思っているため、協力をお願い申し上げる。

●●会長：次回の協議会では素案について協議を行う予定としている。引き続き各関係者と連携しながら検討を進めていくこととする。

事務局：本日の意見やアドバイスを踏まえ、引き続き検討を進めていくため、今後とも協力いただきたく思っている。また、本日欠席の●●委員に本日の協議会の内容を伝え、その中でいただいた意見も踏まえて検討を進めていくこととする。

(8) 閉会

●●副会長：本日は長時間に渡り貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。本日の議論に基づき、今後の三木市の自転車活用推進計画をまとめていきたいと考えているため、引き続き協力の程、お願い申し上げます。以上を以って第1回三木市自転車活用推進計画検討協議会を閉会する。

4 出席者

区分	団体名・所属・役職	出欠
委員	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授	○
	バイシクル プロジェクト BICYCLE PROJECT 代表	欠席
	兵庫県三木警察署 交通課 課長	○
	兵庫県県土整備部 土木局 道路企画課 計画調査班 主査	○ (代理)
	兵庫県北播磨県民局 加東土木事務所 所長補佐 (企画調整担当)	○
	兵庫県北播磨県民局 加東土木事務所 道路第2課長	○
	兵庫県北播磨県民局 県民交流室 室長補佐	○
	三木市 都市整備部 部長	○
	三木市 産業振興部 部長	○
	三木市 都市整備部 道路河川課 課長	○
	三木市 都市整備部 都市政策課 課長	○
	三木市 市民生活部 生活環境課 課長	○
	三木市 産業振興部 観光振興課 課長	○
	三木市 教育委員会 教育総務部 教育施設課 課長	○
三木市 総合政策部縁結び課 課長	○	
オブザーバー	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所 総括保全対策官	○

○：出席

[事務局] 三木市 都市整備部 道路河川課、産業振興部 観光振興課